

## 第1回宗像市小中一貫教育推進協議会 会議録

日 時	平成25年7月25日(木)午後7時00分から午後8時30分まで
場 所	宗像市役所北館2階 202会議室
出席者	<p>【委員】</p> <p>石丸哲史、前田誠、中村淑恵、船越美知、脇田哲郎、井ノ口真一、水田尚文、中村藤恵、池田隆、武内勉、木村秀子</p> <p>【事務局】</p> <p>教育長 久芳昭文、教育部理事 後藤正弘、教育部長 高橋勇次、教育政策課長 岡田光晴、教育政策課指導主事 羽田野崇、教育政策課指導主事 西島潔、教育政策課指導主事 正路澄代、教育政策課政策係長 許斐知加、教育政策課政策係企画主査 山本幸江 (敬称略)</p>

1 教育長挨拶

2 日程説明

3 委員紹介(資料1) 委員、事務局の順に自己紹介

4 会長・副会長の選出 石丸哲史 会長、前田誠 副会長 を選出

5 諮問 久芳昭文教育長から石丸会長へ諮問書(別紙)を提出

6 会長挨拶

7 協議

説明1

(1)諮問内容について(資料2) 事務局 後藤教育部理事から説明

(2)宗像市小中一貫教育推進協議会規則について(資料3) 事務局 岡田教育政策課長から説明

(3)質疑応答 なし

説明2

(1)宗像市小中一貫教育の概要について(資料4)

「小中一貫教育の成果と課題」「基本方針の骨子案」について、事務局 羽田野指導主事から説明

(2)質疑応答

- ・小中一貫教育の効果が表れた原因は何か。これというものがあれば具体的に教えてほしい。
- 中学校区で授業づくりや授業スタイルを統一し、授業規律の確立を目指している。

・第2期について、学園長が中学校長でよいのか。

→中学校3年生が最後の姿を示しているので、中学校長から逆算して目指すものを示してほしいと考えた。委員の皆さんの意見をぜひいただきたい。

・ふるさと学習をするのは良いことだと思うが、総合的な学習の時間の確保ができるかどうかを把握しているのか。

→地域の店や事業所で働いている現行のワクワク WORK や現在実施している地域学習を充実させたいと考えている。

・現行のワクワク WORK や現在実施している地域学習をふるさと学習とっているのなら、こじつけか詭弁だと思う。各中学校の総合的な学習の時間を調べて把握していただきたい。

・委員の任務は何か。今回提示された基本方針骨子案を付加修正して新しいものを作りあげていくと捉えてよいか。大きく変えていいのか。

→こちらで固めているわけではないので、委員の皆さんから意見をいただいて、改善したり肉付けをしたりして新しいものを作っていきたいと考えている。

→全く何もない中で議論いただくのは難しいと思い、事務局で大まかな内容をお示している。これをたたき台として、さまざまな意見をいただき、より良い基本方針ができればと考えている。

・骨子案にふるさと学習が入っているのは、今後小中一貫教育を推進していくときに、地域や家庭も一緒にということではないか。市全体でコミュニティの方にも来ていただいているので、学校教育に地域を取り入れていった方がよいということではないか。

→地域、家庭と一緒に教育活動を行っていききたいと考えている。

→家庭、地域、コミュニティの連携は欠かせない。本市の小中一貫教育は横のつながりや広がりを抜きにして考えられない。教育環境すべてが子どもを変え、育てていくという考え方で、その中心が小中一貫教育というスタンスだ。

・小中一貫教育で、宗像市がどういう子どもを育てていきたいかまでいくのではないか。第2ステージなので、小中一貫教育という目線だけではなく、宗像市としてどのような子どもを必要としているのか。

→これまでは生きる力や学ぶ意欲、中1ギャップだった。これからはどのような子どもを育て、自立させていくのかを考えていきたい。宗像市の子どもなら学力を5ポイントあげたい。願わくは、教員の姿や地域の姿、保護者像も考えていきたい。

・これぞ小中一貫教育、小中一貫教育ならではの、というものが感じられない。どこでもやらなければならないことをやっているだけではないか。

・宗像市外のコミュニティスクールに関わっているが、小学校でコミュニティスクールの話をして、中学校でも話をすると小中学校で話がうまくつながっていないことがある。子どもは地域でつながっているのに、校種でつながっていない部分がある。早晚、どこの地域でもコミュニティスクールになっていくのなら、小中一貫教育をしていた方がうまくいくのではないか。義務教育の9年間でどのように育てていくのか。教育課程をどうしていくか。なぜ6, 3, 3で分かれているのか。9年間を考えながら、小中一貫教育を考えるという部分が出てきているのではないか。

・宗像市は小中一貫教育の体制はほぼできているので、あとは内容だと思う。何のために小中一貫教育をす

なのか、児童生徒にどの学年で何の力をつけるのかを前面に出した方が良い。

・5ページの19年から21年は、見方によっては伸び方がなべてきているのではないかと。小中学校の子どもが慣れて仲良くなるのは良くない。中学校にいったらびりっとするのが良い。仲良くなれば小中一貫というのは思えない。宗像高校が中高一貫教育をするのに、中期が引っかかってよいのか。小学校と中学校がお互いを知らない。小学校の方が厳しい。小学校のがんじがらめの厳しさから中学校で開放される。中1ギャップも分析しておくべき。小中一貫教育で一番しなければならないのは、子どもが変わることではなく、教員の意識改革。

・教員の意識を変えるのが大事だというのはそのとおりだ。宗像市で小中一貫教育を始めたときから学校の教員の意識を変えるのが一番だった。飯塚市では、小中一貫教育で教員の意識改革のために何をしたのか。

・小学校、中学校の校長を経験して、小学校の教師は閉鎖的だと感じた。小学校の教師はもっと開くべき。小学校の教師が中学校に教えにいくなんて意味がない。中学校の教員の定数を増やして中学校の教員が小学校へ行くべき。小学校の教師は小学校において学習規律をびしっとした方が良い。

・小中一貫教育で一番変わったことは、小中学校の教員の意識が変わったことだと思う。それがあったからこそ、このような成果が出たのだと思う。

・それを行政がどう判断して定数を増やすか、第2段階で行政的にどのように手を打っているかだと思う。

・宗像市には加配で人材を派遣してもらっている。そのあたりよりも、小中一貫教育の中身をどう充実していくかを議論したい。

・この会は小中一貫教育を推進する協議会。基本方針の骨子をどのようにしていくか。ふるさと学習など総合的な学習のことも考えていかなければならない。時間数が減っている中で、これから教育課程をどう持っていくか。本日は忌憚のない意見を出していただいたので、次回はさらに有意義な会議ができると思う。城山中学校区の研究に携わっているが、義務教育のまとめとしての中学3年生を見ている校長は学園長として相応しいのではと感じた。子どもにとって、子どもの姿、子どもの論理も考慮しながら協議をしたい。いろいろな立場からの意見をいただけるとありがたい。「中学校でびりっとする」という意見があったが、今はその「びりっ」に耐えられない子どももたくさんいる。小中学校の滑らかなつながりをしてあげるべき時がきているのではないかと。6, 3という固定観念を4, 3, 2とするような具体的な方向性も考えている柔軟性も必要。次回以降、基本方針や骨子を協議するので、資料をよく読んでいただいて、忌憚のない意見を出してもらい、より良いものを作成していきたい。

## 8 その他

(1)今後の協議会の進め方について(資料5) 事務局 岡田教育政策課長から説明

## 9 閉会挨拶

## 10 諸連絡

・次回以降の開催日時を案内

第2回協議会 平成25年9月3日(火)午前10時～、第3回協議会 平成25年10月7日(月)午後6時～

・場所等については、後日文書を発送

